

特別支援学級 日常生活の指導学習指導略案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級2組）

6人（2年男子2人，女子1人，3年男子2人，5年男子1人）

指導者 藤原 志穂美

1 題材名 朝の会 ～いい友タイム～

2 題材の目標

- 個人のめあて（「今日頑張ること」）を決めて、意欲的に活動することができる。
- 友達と関わり合いながら、仲良く活動することができる。
- 友達のよさを見付けたり、思いや考えを受け入れたりしながら、互いを認め合うことができる。

3 題材設定の理由

本学級では、毎日1校時に「日常生活の指導」の時間を位置付けている。この時間には、衣服の着脱、洗顔、手洗い、食事、清潔などの基本的な生活習慣の内容や、挨拶や言葉遣い、礼儀作法、時間やきまりを守ることなどの集団で生活する上で必要な内容を、体験したり繰り返し活動したりすることで身に付けてきている。また、その日の具体的な見通しと、期待感をもって学校生活をスタートすることができるようにしてきている。しかし、学びに対する意欲の持続や他者との意思疎通、意図や感情への理解など集団としての課題が大きいと、この朝の会の中でも個々のめあてを明確化し、その取組を積み重ねていく必要がある。

本題材では、個人のめあてを明確にすることで、個々のもっている力や個性を發揮し、意欲的に活動することができるようにする。また、子供同士が主体的に「関わり合い」をもちながら学ぶことができるようにするために「いい友タイム」を設定する。「いい友タイム」では、友達のよさを見付けたり、思いや考えを受け入れたりしながら、互いを認め合う人間関係を育むことをねらいとする。朝の会全体を通して、「関わり合い」を視点とした展開にすることで、「関わり合い」を充実させるためのスキルを身に付けていくことができるようにする。さらに、「いい友カード」を基に自己評価・相互評価をすることで、できたことへの自己肯定感を高めたり、友達のことを考えたりすることができるようにする。

このように、「朝の会～いい友タイム～」の指導を通して、子供に身に付けさせたいことを繰り返し指導するとともに、一人一人の意思や気持ちを大切にしながら集団で共通の活動をしていくことで、日常の様々な場面で、子供が自信をもって学んだことを生かすことができるようになる。また、友達と一緒に関わり、友達のよさを見付けたり、思いや考えを受け入れたりしながら、互いを認め合う経験を積み重ねていくことで、集団や交流学級の一員としての自覚をもち、学校生活や社会生活においての人間関係をよりよくしていくことにつながると考える。

4 本時（2学期）

【一次】 教師と一緒に参加し、朝の会の流れや進め方を知る。（1学期）

【二次】 教材・教具（「いい友グッズ」や「いい友カード」など）の習得とそれらを使用した活動の仕方を知る。（2学期）

【三次】 習得したことを活用し、友達と役割を分担しながら朝の会を進行する。（3学期）

(1) 目標 友達と関わり合いながら仲良く活動することができる。

個人目標	A児（2年）	友達の意見を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。
	B児（2年）	自分の思いや考えを友達に伝えることができる。
	C児（2年）	自分の意見を伝えるだけでなく、友達の思いや考えも受け入れることができる。
	D児（3年）	自分から進んで関わったり、協力して活動したりすることができる。
	E児（3年）	誰とも仲良く活動することができる。
	F児（5年）	みんなの意見をまとめたり、話し合いを進めたりすることができる。

(2) 指導に当たって

ア 「学び合い」の基礎となる「関わり合い」に視点を当てた授業づくり【研究内容1】

- 活動の中に、意図的に「関わり合い」の場の設定をする。当番活動では、当番の活動内容をカードで示すことで、友達と役割を話し合うことができるようにする（分業・調整）。また、「いい友タイム」では、活動の順番を決めたり、活動の内容を話し合ったりする中でそれぞれのよさや頑張りを認め合うことができるようにする（交代、称賛）。
- 「いい友タイム」の際には、その日の「関わり合い」の目的に応じた「いい友グッズ」（教材・教具）を活用することで、子供たちが積極的に発言したり、互いを認め合ったりすることができるようにする。

イ 自己の学びを自覚するための評価活動【研究内容2】

- 題材を通して「いい友カード」（自己評価カード）を活用することで、題材全体を通じた学習の積み重ねを実感することができるようにする。自己評価の際は、個人のめあて（「今日頑張ること」）や「関わり合い」について振り返りを行うことで、自己の学びの達成感を味わったり、友達のよさを認め合ったりすることができるようにする。

(3) 展 開 聞 く、 話 す、 見 る、 動 く は、 「 関 わ り 合 い 」 を 充 実 さ せ る た め の 活 動 ◆ 評 価 に 関 す る こ と ☆ は I C T 活 用 上 の 留 意 点

<p>過 程 (分)</p> <p>つ か む ・ 見 通 す (5)</p>	<p>主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 供 の 反 応</p> <p>1 個 人 の め あ て (「 今 日 頑 張 る こ と 」) を 決 め る。 (1) 個 人 の め あ て (「 今 日 頑 張 る こ と 」) を 決 め る。 (2) 個 人 の め あ て を 黒 板 に 示 す。 今日 の 朝 の 会 は 友 達 と 助 け 合 っ て 頑 張 り た い な。</p> <p>2 朝 の 会 を す る。 (1) 始 め の あ い さ つ を す る。 (2) 朝 の あ い さ つ を す る。 (3) 朝 の 歌 を 歌 う。 (4) 健 康 観 察 を す る。 (5) 今日 の 日 付 を 読 む。 (6) 時 間 割 を 発 表 す る。 (7) 当 番 活 動 を す る。 【 関 わ り 合 い 】 (分 業 ・ 調 整、 協 力) (8) 「 ใ ใ 友 友 時 間 」 を す る。 【 関 わ り 合 い 】 (交 代、 称 賛) 順 番 は ど う や ゃ っ て 決 め た ら い い か な。 今日 は ○ ○ (ใ ใ) 友 友 (グ ヅ) を 使 っ た ら ど う か な。 (9) 振 り 返 り を す る。 花 丸 を ○ 個 も ら え た か ら、 ◎ だ。 ○ ○ く ん が ゆ ず っ て く れ て、 と て も う れ し かった。 ○ ○ く ん が、 や さ し く 教 え て く れ ま し た。</p>	<p>子 供 に 応 じ た 具 体 的 な 指 導</p>
<p>活 動 す る (30)</p>	<p>○ 一 人 一 人 に、 意 欲 が 高 ま る よ う な 言 葉 掛 け を す る こ と で、 や る 気 の あ ふ れ た 雰 囲 気 で 朝 の 会 が 始 め ら れ る よ う に す る。 ○ 個 人 の め あ て (「 今 日 頑 張 る こ と 」) を 決 め る 際 は、 キー ワー ド や 選 択 肢 を 示 す こ と で、 自 分 で め あ て を 考 え た り、 決 め た り す る こ と が で き る よ う に す る。 ○ 個 人 の め あ て (「 今 日 頑 張 る こ と 」) を 紹 介 す る こ と で、 友 達 の め あ て に も 気 付 く こ と が で き る よ う に す る。 [見 る] ○ 始 ま り の 時 刻 と 終 わ り の 時 刻 を 掲 示 す る こ と で、 見 通 し を も ち、 時 間 を 意 識 し て 活 動 す る こ と が で き る よ う に す る。 ○ 「 ใ ใ 友 友 時 間 」 で 行 う 活 動 内 容 を 紹 介 す る こ と で、 最 後 ま で 期 待 感 を も っ て 朝 の 会 に 参 加 す る こ と が で き る よ う に す る。 ○ 声 の 大 き さ を 示 す 掲 示 物 を 確 認 す る こ と で、 相 手 に 届 く 声 の 大 き さ で あ い さ つ を す る こ と を 意 識 で き る よ う に す る。 [話 す] ☆ 朝 の 歌 で は、 立 ち 位 置 を 示 す こ と で、 テレ ビ か ら の 距 離 に 気 を 付 け て 歌 う こ と が で き る よ う に す る。 ○ 「 今日 の 6 人 の 調 子 は ど う か な。 」, 「 6 人 全 員 元 気 か な。 」 と 発 問 す る こ と で、 自 分 以 外 の 人 の 健 康 状 態 に も 興 味 を も っ て 知 り、 今日 も み ん な と 一 緒 に 元 気 に 過 ご し た い と い う 意 識 を も つ こ と が で き る よ う に す る。 ○ 手 の 挙 げ 方、 返 事 の 仕 方、 自 分 の 健 康 状 態 の 発 表 の 仕 方、 表 情 な ど 一 人 一 人 の よ い と ころ を 称 賛 す る こ と で、 他 の 子 供 へ の 興 味 ・ 関 心 を よ り 高 め る こ と が で き る よ う に す る。 ○ 日 付 の 読 み 方 を 全 体 で 確 認 す る こ と で、 自 信 を も っ て 読 む こ と が で き る よ う に す る。 ○ 聞 く と き の ポ イ ン ト を 示 す こ と で、 発 表 を 最 後 ま で 聞 い た り、 体 を 向 け て 聞 い た り す る こ と が で き る よ う に す る。 ○ 当 番 の 活 動 内 容 を カ ー ド で 示 し、 自 分 で 選 択 す る こ と で、 活 動 を や り 遂 げ た 達 成 感 を 得 る こ と が で き る よ う に す る。 [動 く] ◆ 当 番 活 動 を 終 え た 後、 花 丸 カ ー ド を 渡 し、 称 賛 す る こ と で、 で き た こ と へ の 実 感 を も つ こ と が で き る よ う に す る。 ○ 個 々 の 頑 張 り の 結 果 が 一 つ の 作 品 の 完 成 に つ な が る よ う な 教 具 を 準 備 す る こ と で、 一 人 一 人 の 力 を 合 わ せ て 活 動 し て い こ う と い う 意 欲 を 高 め る こ と が で き る よ う に す る。 ○ そ れ ぞ れ の 頑 張 り や み ん な で 協 力 で き た こ と を 称 賛 す る こ と で、 互 い の 頑 張 り を 認 め 合 っ た り、 成 果 を 喜 び 合 っ た り す る こ と が で き る よ う に す る。 [聞 く、 話 す] ○ 順 番 を 決 め る 際 は、「 ใ ใ 友 友 (グ ヅ) 」 を 使 う こ と で、 自 分 た ち で 決 め る こ と が で き る よ う に す る。 [A ・ C 児] 「 他 の 友 達 の 意 見 も 聞 い て み よ う ね。 」 と 言 葉 を 掛 け る こ と で、 友 達 の 意 見 を 聞 い て 自 分 の 意 見 を 言 う こ と が で き る よ う に す る。 [B 児] 意 見 を 発 言 す る た め の 話 型 を 示 す こ と で、 自 信 を も っ て 自 分 の 意 見 が 言 え る よ う に す る。 [D ・ E 児] 話 合 い の 際 に、 座 席 を 指 定 す る こ と で、 友 達 と の 話 合 い に 参 加 す る こ と が で き る よ う に す る。 [F 児] 話 合 い を 進 め る 際 に、 気 を 付 け て ほ し い 大 切 な ポ イ ン ト が 書 か れ た チ ェ ッ ク カ ー ド を 提 示 す る こ と で、 全 員 の 意 見 を 確 認 し な が ら 話 合 い を 進 め る こ と が で き る よ う に す る。 ○ 「 ใ ใ 友 友 時 間 」 で は、 活 動 の き ま り や ル ー ル を 具 体 的 に 示 す こ と で、 子 供 同 士 で 関 わ り 合 い な が ら 活 動 を す る こ と が で き る よ う に す る。 [動 く] ◆ 「 ใ ใ 友 友 カ ー ド 」 (自 己 評 価 カ ー ド) を 使 っ て 活 動 を 振 り 返 る こ と で、 個 人 の め あ て (「 今 日 頑 張 る こ と 」) を 達 成 で き た か 自 己 評 価 す る こ と が で き る よ う に す る。 ま た、 友 達 の よ さ や 頑 張 り に 気 付 く こ と が で き た り、 思 い や 考 え を 受 け 入 れ た り し り な が ら 認 め 合 う こ と が で き る よ う に す る。 ○ 今日 の 朝 の 会 を 振 り 返 る こ と で、 期 待 感 を も っ て 1 日 を 過 ぐ す こ と が で き る よ う に す る。</p>	<p>活 動 す る (30)</p>
<p>振 り 返 る (10)</p>	<p>(10) 終 わ り の あ い さ つ を す る。</p>	<p>振 り 返 る (10)</p>

「関わり合い」想定シート

○ 題材名 朝の会 ～いい友タイム～（2学期）

○ 本時の「関わり合い」における個人目標

A児	友達の意見を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。
B児	自分の思いや考えを友達に伝えることができる。
C児	自分の意見だけでなく、友達の思いや考えを受け入れて話合いができる。
D児	自分から進んで関わったり、協力して活動したりすることができる。
E児	誰とでも仲良く活動することができる。
F児	みんなの意見をまとめたり、話合いを進めたりすることができる。

○ 本時の「関わり合い」の場面

教師の手立て

2(7) 当番活動



当番活動をしましょう。みんなで協力すると教室中が過ごしやすくなるよ。今日は何をしようかな。

ぼく（わたし）は、〇〇を頑張りたい。
※自分のしたい当番活動を伝える。（A・B・D・E児）



じゃあ、今日は〇〇をしていいよ。ぼくは、〇〇をするよ。
※自分がしたかったことを我慢して、友達にゆずってあげる。（C・F児）



当番活動の内容が書かれたカードをボードに貼り、視覚的にも支援することで、互いに譲り合うことができるようにする。（全員）

教師は、できたことや友達を思った行動などを称賛することで、子供が相手を認める姿勢や態度に気付くことができるようにする。（全員）

2(8) いい友タイム（順番を決めるとき）



順番を決めるよ。どうやって決めたらいいかな？「いい友グッズ」も使ってみよう。

みんなどうやって決める？何を使って決めようか。
※話合いを進める。（F児）



〇〇で決めたらいいと思います。
※自分の考えを伝える。（A・B・D・E児）



ぼくは、〇〇さんの考えの方がいいなと思いました。
※友達の考えを受け止める。（C児）



〇〇さんの考えは、〇〇さんと一緒だね。△△くんはどうしたらいいと思う？
※自分の考えと友達の考えを比較する。（C・F児）



わたしは、〇〇がいいんだけど、みんなの考えを聞いて、□□でいいよ。
※自分の気持ちを切り替える。（A・B・C・D・E児）

〇〇さん、ありがとう。じゃあ、みんなで〇〇を使って決めよう。
※決まったことを確認し、次の活動に導く。（F児）



この順番でしょう。みんな順番を守ってね。
※交代、協力（全員）

〇〇さん、教えてくれて、ありがとう。みんなで仲良く頑張るぞ。
※称賛（全員）



〇〇さんの次だから、順番を間違えないでね。一緒に頑張ろう。
※教示（C・E・F児）

話合いの進め方を教師が示すことで、子供が進める話し合いになるようにする。（F児）

「〇〇さんはどう思っているかな。」と発問することで、友達の考えを聞くことができるようにする。（C・D・E児）

友達と関わり合っていることを称賛することで、積極的に友達と関わることができるようにする。（A・B児）

個人のめあてが達成できるように、活動ごとにできたことを称賛する。（全員）